

2008年度の主な受賞・受章 (2008年8月～2009年7月)

米国物理学会

本学の井上総長、宮崎教授に米国物理学会賞が授与された。授賞式は2009年3月16日、米国ペンシルバニア州ピッツバーグ市で行われた。

マックグラディ新材料賞 2009.3 受賞

東北大学総長 井上 明久 教授

徐冷却による バルク金属ガラス作製法を開発

「マックグラディ新材料賞」は材料物理学に優れた業績を挙げた研究者に授与される。同賞は1975年に創設され、多くのノーベル賞受賞者を出している権威あるものとして知られている。日本人では、過去にノーベル物理学賞の江崎玲於奈氏(1985)、カーボンナノチューブを発見した東北大学出身の名城大学教授・飯島澄男氏(2002)らが受賞している。

受賞理由は「徐冷却によるバルク金属ガラス製法の開発」で、カリフォルニア工科大学のウィリアム・L・ジョンソン教授との共同受賞となる。井上総長は、独自の理論で設計した合金では、通常の冷却法を用いても一般的な金属に比べ強く、しなやかな非晶質のバルク金属ガラスができることを発見。この成果は精密機械部品、投射材、スポーツ用具材及び電磁気部品などに実用化され、今後も広い分野で応用が期待されている。



バックレイ固体物理学賞 2009.3 受賞

原子分子材料科学高等研究機構 宮崎 照宣 教授

トンネル磁気抵抗効果の パイオニアとして評価

「バックレイ固体物理学賞」は固体物理学の理論・実験で優れた業績を挙げた研究者に授与される。

同賞は元ベル研究所所長オリバー・E・バックレイを記念し、1952年に設立された。これまでも半導体のショックレイ(1953)、バーディーン(1954)や

トンネル効果のジェバー(1973)ら多数のノーベル賞受賞者が受賞している。

宮崎教授は「トンネル磁気抵抗効果の先駆的な研究、及びそのスピントロニクス分野への応用」が高く評価され、マサチューセッツ工科大学のR・メサーベイ、J・ムーデラ、P・テドロウの3教授との共同受賞になる。



米国「ラスカー賞」 2008.9 受賞

農学研究科 遠藤 章 特任教授

スタチンを発見し、心臓病治療に貢献

ノーベル賞の登竜門とも言われる米国最高の医学賞「ラスカー賞」に、遠藤章特任教授が選ばれた。日本人の受賞者としては、ノーベル医学・生理学賞を受賞した利根川進マサチューセッツ工科大学教授らに続く5人目となり、大変意義深いものである。

遠藤特任教授は青カビの培養液から血液中のコレステロールを劇的に下げる物質を発見。現在世界中で使われているコレステロール低下薬「スタチン系薬剤」を生み出し、これはペニシリンと並ぶ「奇跡の薬」とも呼ばれている。国内外の協力のもと、長年にわたる研究成果は心臓病の治療などに幅広く役立てられており、国際的にも極めて高い評価を得ている。



平成21年度 恩賜賞・日本学士院賞 2009.3 受賞

文学研究科 村上 哲見 名誉教授

日中研究において傑出した成果をもたらす

中国文学『宋詞』について系統的かつ文学史的に追求し、日中両国における研究史を通じ、文学史的視点を提示することにより、傑出した成果をもたらした。



平成21年度 日本学士院賞 2009.3 受賞

法学研究科 川人 貞史 教授

日本政治学の進むべき方向性を明示

『選挙制度と政党システム』及び『日本の国会制度と政党政治』をテーマに、最先端の理論分析を通じて定性的な政治史研究と定量的な実証研究を融合。今後の日本政治学の進むべき方向性を明示する画期的な研究として高く評価された。



平成21年度春の紫綬褒章 2009.4 受賞

農学研究科 佐藤 英明 教授

動物生殖の分野でパイオニアとして活躍

家畜を対象として卵子の体外成熟培養法の開発などに関する一連の研究で先駆的な業績を挙げ、卵巣卵子の高度利用の道を拓いた。



IEEE(米国電気電子学会)よりFellowの称号授与 2009.1 授与

情報科学研究科 田所 諭 教授

レスキューロボティクスの発展を牽引

電気電子の分野を国際的にリードする国際学会IEEE(The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.)より2009年1月1日付でFellowの称号を与えられた。田所教授の、レスキューロボティクスの発展と展開におけるリーダーシップに関する業績が認められての授与となる。



Topics!

大学ランキング高校からの評価で4年連続日本一

朝日新聞社が全国の高校進学指導教諭にアンケートを実施し、調査した結果、東北大学が総合評価で2006年以降連続して1位に輝き続けている。これは近年、本学の「研究・教育の実態」が正当に評価されている現れと考えられる。同じ調査では「進学して伸びた」大学としても、2年連続第一位と高い評価を得ている。

ESI論文被引用数ランキングで「材料科学」が世界第3位

学術論文の引用動向データベースである、トムソン・ロイターサイエンティフィックの「Essential Science Indicators SM(トムソン・ロイター)」で、東北大学の「材料科学」が世界第3位にランキングされた(2009年7月)。また、国内では「材料科学」は第1位、「物理学」は第2位となっている。

1位●東北大学

- 2位●東京大学
- 3位●慶応義塾大学
- 4位●筑波大学
- 5位●立命館大学
(大学ランキング 2010年版)

世界第3位(国内第1位)●材料科学

- 世界第10位(国内第2位)●物理学
- 世界第17位(国内第5位)●化学
- 世界第51位(国内第3位)●工学
(論文の引用動向 1999年～2009年)